



今年もできた桜の門

みごとな桜の門

新型コロナウイルスが猛威を振るい、学校再開が危ぶまれる中も、今年もみごとな桜の門ができました。満開の桜の下を、新しい学年に胸を膨らませて、登校してくる子どもたちを歓迎するかのようです。私は、その光景を今年も見られることとなり、感慨もひとしおでした。昨年度、定年退職の節目を迎えたのですが、もう1年、校長として学校運営を任せられることとなりました。「私でいいのか」と迷いはありましたが、何よりも、「また子どもたちと一緒にいられる」という喜びで、いっぱいです。そして、

現在直面している難局に対して責任の重さを痛感するとともに、与えられた最後の1年、来年もこの見事な桜を咲かせるように邁進する所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

令和2年度広野小学校スタート！ お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。

心からお喜び申し上げます。新1年生56名を迎え、通常学級13クラス、特別支援学級（のぞみ・ひかり・さくら）3クラス、全校生395名でスタートです。

学校を創れ 未そして挑 自ら学ぶ学びの楽しさあふれる学校

今年の一文字は『未』そして『挑』。私の夢は、「学校を創れを合言葉に、先生と子どもたちが自ら主体的に動き、自分たちのたのしい学校を創っていく、そんな学校を創りたい。」

でした。学校改革は、よく3年と言われます。「誕」で芽吹き、「展」で大きく発展・進展し、昨年度の「輝」では、生き生き躍動した運動会や音楽会などの学校行事や、たのしい学校を創ろうと自分たちで考えたあいさつ運動や広野小マスコットキャラクター、何と言っても、研究会で三木市内外の先生方に、伝え合い・学び合い、自ら学ぶことのたのしさを再認識させた三木市学力サポート事業研究発表会など、大きな輝きを放ちました。今年4年目である『未』に込めた私の思いは、未来の「未」、本校の推進しているキャリア教育の目標である「未来へつなぐ」の「未」です。そして、未知の世界の「未」、未が表す意味は「いまだかつてない、いまだできていない」です。新型コロナウイルスが世界中を襲い、感染予防のために、3月から学校が休校になり、始業式や集会など、みんなが体育館に集まることができないなど、いまだかつて学校教育でなかったことが起こっています。これからどうなるのか、子どもたちにとっても先生たちにとっても、そして保護者の皆様も未知の世界なのです。しかし、私たちは、コロナだからできないではなく、コロナの中でできることは何か、できる方法は、そして新たな学習場面・学習方法を創り出さないといけないのです。

「未」そして「挑」は、未知への挑戦。コロナとの戦いに勝ち、新たな学校作りに挑んでいくのです。今年度は、特に保護者の皆様の協力なしではできません。「令和2年度新型コロナウイルス感染予防に係る学校運営について」をお読みになり、ご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

あらためて、ここに **学校教育目標**
こころ豊かに たくましく生きる 広野っ子の育成
—豊かな心・確かな学力・健やかな体—
を掲げ、職員一丸となって全力で取り組んで参ります。

どうぞ お楽しみに

校長 古谷 昭文

